



南アフリカ通信

No.6 (2022.12)

JICA 海外協力隊 (2022 年度 1 次隊)
小学校教育 北川裕介



早いもので、2022 年も残りわずかとなりました。クリスマスや年末の大掃除、お正月など、イベントが盛りだくさんの冬休みがとても楽しみです。

一方、南アフリカの小学校でも夏休みが始まっています。暑いクリスマスや年末は初めてなので、なんだか不思議な感じです。

さて、12 月 18 日に「サッカーW 杯 カタール大会」が閉幕しました。予想を超えた熱戦が数々に繰り広げられ、世界中で熱狂した 1 か月間でした。我ら日本代表も見事、強豪のドイツとスペインに勝利し、死のグループと言われるくらい強いグループを 1 位で突破しましたね。決勝トーナメントでは、惜しくも PK 戦でクロアチアに敗れたものの、選手たちの最後まであきらめない姿にとても感動しました。

ということで、今回は南アフリカで人気なスポーツ TOP3 をお伝えします。



サンタさんはとても暑そう。
まわりの人はみんな半袖なのに…。

サッカー



シロアム小学校でも
休み時間はサッカーをして
過ごす子が多いです。

ここ南アフリカでもサッカーは大人気。サッカーW 杯の期間中、スポーツチャンネルの 200~204 番は常に試合、試合の再放送、サッカーの解説が放送されています。余談ですが、南アフリカのテレビ (DSTV) は 400 番台までチャンネルがあり、世界中の番組を見ることができます。

431 番は日本の「NHK World」です。

2010 年にはアフリカ大陸で初めてとなるサッカーW 杯が南アフリカで開催されました。南アフリカの男子代表は「Bafana Bafana “バファナ・バファナ”」(ズールー語で「少年たち」という意味)、女子代表は「Banyana Banyana “バニャナバニャナ”」と呼ばれています。



ブブゼラという楽器で
選手たちを応援します。

ラグビー



ラグビーは南アの国技です。「南アフリカといえばラグビー」と言われるくらい、盛んなスポーツで、代表チーム「スプリングボックス」の実力は世界トップクラスです。1995 年に W 杯に開催国として初参加し、初優勝をするという偉業を成し遂げました。その後も、2007 年フランス大会や 2019 年日本大会でも優勝を果たしています。



代表チームの紋章
国獣
「スプリングボック」

【アパルトヘイトの象徴から「虹の国」の象徴へ】



写真: 読売新聞オンラインより

南アフリカの歴史にラグビーは深く関わっています。今や南アの文化として深く根付き、国の誇りの源にもなっていると言えます。

アパルトヘイト時代、ラグビーは「白人のスポーツ」とされており、黒人等の有色人種はラグビーを嫌い、国際大会では相手チームを応援していたそうです。

そんな中、ネルソン・マンデラ大統領はスプリングボックスの応援を始めました。大統領の姿勢を受け、選手たちも白人だけでなく全ての人から応援される真の南アフリカ代表を目指して懸命に戦い続けました。

1995 年ラグビーW 杯でマンデラ大統領がキャプテンのフランソワ・ピナール選手に優勝トロフィーを手渡す瞬間は、アパルトヘイトが終わり、「虹の国」としてひとつにまとまった南アフリカの象徴として今も語り継がれています。

**『スポーツには世界を変える力がある。人々にインスピレーションを与え、
団結させる力があるんだ。』**

ネルソン・マンデラ

当時の様子は「インビクタス - 負けざる者たち - 」という映画に見事に描かれています。機会があれば皆さんもぜひ一度見てみてください。

クリケット



写真:www.iol.co.za より



代表チームの紋章
国花
「キングプロテア」

クリケットはイギリスの国技で、野球の原型といわれる球技です。17世紀以降、イギリスの領土拡大にともない、オーストラリア、インド、南アフリカなど、全イギリス植民地に広まっていきました。1971年からはW杯も開催され、今や競技人口はサッカーに次いで第2位といわれており、世界的に人気のスポーツです。

代表チームは南アフリカの国花にちなんで「プロテアズ」と名付けられています。2003年には、南アフリカでもW杯が開催されました。

うれしかったこと

「すごいな！日本！」

「次の日本の試合はいつだ？ 応援するから教えて！」

サッカーW杯の期間中に学校の先生たちや近所のおじさんなど、たくさんの方がこのように声をかけてくれました。国は違うけれど、一緒になって日本代表を応援し、勝った時には同じように喜んでくれました。負けてしまった時には、すぐに“WhatsApp”というメッセージアプリや電話で励ましの声をかけてくれました。

スポーツは国境を超える。

年齢や人種を超えて仲よくなれる。

スポーツは人々の心を動かし、勝ち負け以上の「何か」を与えてくれる。

南アフリカで観戦し、人々のあたたかさに触れ、改めてスポーツって素晴らしいなと思いました。



コラム - 影が消えてしまった話 -

今月、面白い体験をしました。

結論から言います。12月21日の正午、私の影が消えてしまいました。

右の写真のゴキブリ撃退スプレーの影もありません。

えっ？ どういうこと？ そんなことがあるの？ と思った皆さん。

・・・すみません。曇りや雨でない限り、日中に影が消えることはありません。

正確には、影が自分の真下にできたことで、見えなくなったという表現が正しいです。つまり、頭の真上を太陽が通る状況だったということです。

この日、日本では冬至、南アフリカでは夏至の日です。南アフリカのリンボポ州には南回帰線（南緯23.4度の緯線）が通っています。私が住んでいるシロアム村から南へ車で約1時間半行くと「南回帰線のモニュメント」もあります。（だから、正確には太陽は“ほぼ真上”でしたね。）

なかなかできない体験なので、大興奮でした。

この体験をするためには、いつ、どこにいないといけないでしょうか？

気になる子は調べてみてください。

キーワードは、「回帰線、赤道、春分の日、夏至、秋分の日、冬至、正午」です。



あれ？
スプレーの影はどこ？



影が真下に！